



若年性認知症に関する 地域円卓会議

くらし・就労・子育て、
若年性認知症にまつわる課題をみんなで共有する

実施報告書

- 日時： 2023年3月2日（木）13:30-16:10（受付開始13:00-）
場所： 沖縄県総合福祉センター 501教室（那覇市首里石嶺町4-373-1）
主催： 特定医療法人 アガペ会、合同会社 Green Star OKINAWA、
沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
協力： NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】若年性認知症に関する地域円卓会議



- 日 時：2023年3月2日（木）13:30-16:10
- 場 所：沖縄県総合福祉センター 501 教室
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 参加者数：22名（行政、福祉・医療機関、自営業等）

- 主 催：特定医療法人 アガペ会、合同会社 Green Star OKINAWA、沖縄認知症見守りコンソーシアム（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
- 協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

友寄 利津子（合同会社 Green Star OKINAWA 代表社員）

くらし・就労・子育て、若年性認知症にまつわる課題をみんなで共有する

若年性認知症は、様々なジャンルの困りごとがあるのにも関わらず、まだまだ社会に認知されているとは言えないテーマです。高齢者の認知症に比べると、就労や家計といった経済的な課題が色濃くなり、さらに子育て等の生活課題も発生しています。今回の円卓会議は、このような若年性認知症に関するあらゆる課題を住民と共有したいと考えています。

センターメンバー



友寄利津子
合同会社
Green Star OKINAWA
代表社員



新里初美
公益社団法人
認知症の人と家族の会
沖縄県支部 副代表



安次富麻紀
沖縄県若年性認知症
支援コーディネーター



城間清剛
城間クリニック
院長



高良礼子
うるま市地域包括
支援センターよなしろ
認知症地域支援推進員



嘉陽拓也
琉球新報社編集局
暮らし報道グループ
厚生担当

若年性認知症に関する 地域円卓会議

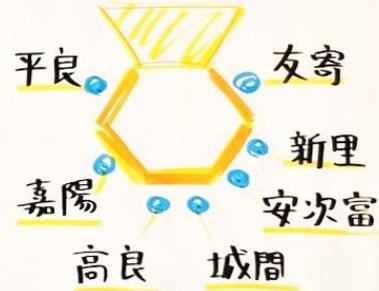
地域・国にわたる社会課題を共有・共有する場

2023.3.2(木) ①

13:30~16:00

◎沖縄県総合福祉センター501

くらし・就労・子育て
若年性認知症 にかかわる
課題をみんなで共有する



主催 特定医療法人アガパ会、合同会社 Green Star OKINAWA

沖縄県若年性認知症見守りコンソーシアム

(公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会)

協力 NPO法人まちなか研究所わかわか

論点提供

友寄利津子 さん

合同会社 Green Star OKINAWA

R5.4 若年性認知症居場所・拠所
(予定)

様々な課題 → 社会認知
まだまだ

共有し、

考え、うごきつくること。

41才女性
4人の子ども
11・9・3・1才
→ かがわっている中
妊娠していること
わかる。

▼ 育事・家事 誰がするの？

▼ 高齢者 にならないうことの対応

▼ たてわり をどう ヨコ につなぐか。
子ども・介護保険

居場所づくり

実態みえてない

↳ 調査 必要

● 特化した居場所 必要

(高齢・障がいだけでなく)

● 理解 がすすんでいない

● 実数 1137 されてない

新里初美さん

認知症の人と家族の会 副代表

当事者のおくさんとして

ご主人 60

H18 うつ病 H24 休職

体調わるく病院へ

おたやかな人だった → おこりだした
何かおかしい...

H26.12 若年性前頭側頭型認知症 診断

他人には... できない
人格変化・行動異常

うけ入れられず! 自ぼうじきに

飲酒運転 (シタカーカマ) → 名護(警察)
自殺キト → 住ゴ入院 (4ヶ月)

56x ひとりにすることできない (3)

デイサービスへ行くことで退院

受入先なかなかみつからず

初日、おれはこなたに3に行くのか!

1日中近くの公園に... いることに

うすくま... っているすがた

介ゴ保険つかっている と 就労でき...
マ... しない。

肉か人の意識が
かわれば、
福祉の世界も変わる
のでは

H27.12 B型就労(2日/週)
デイサービス(4日/週)

笑顔みられるように

木-アに... するには
時間... コレが...
か... 本人も...
家族も

家族会・大城勝史... への出合い

H29 当事者の体験発表 → 実名 写真報道
(シンポ)

安次富麻紀さん

沖縄県若年性認知症支援コーディネーター

うつとにている
体調わるいけど、なまだう...
病院も... という方は多い

新オレンジプラン

H29 支援コーディネーターが全国配置

- 相談・居場所
- 支援ネットワーク
- ふきゅうけいはつ

脳のインパクトがわかって...
→ 次につながる受診につながらない

ひとりひとり 状況... ちがう。
→

経済・就労・子育ての支援

50.9人 / 10万人 発症 (4)

509人の13万 (沖縄県)

40~64 542 ~ 1126人
介ゴ保険 999人 + α

- 55.4才 男多...
- 受診おくれ 診断しにくい
- 経済的な 親の介ゴ・複数介ゴ
- 主介ゴ者が配らう者多...
- 家庭内の問題 マンガケラウ
- 社会からとりのこされた感
- 仕事をしたい 社会復帰の気持ち強い
- 中長期支援 支援 家族の負担軽減
- 経済的・就労支援 症状の進行
- 社会とのつながり 健康面

社会的要因

支援連携の必要な窓口

(5)

- 多くの連携先 があるため 1人では きびしい
- 八重瀬町のうごき
(包括でのタイアップ (最初から))
- SOSネットワークへの登録 まで すまじゆう
- 支える人々 → チームで

課題

- 当事者の数 137
- 医・福・介の社会的ステータス
利用受入のカバ
- 診断 → サービス受けるまでの期間 なくす
1年2ヶ月(平均)
3~5年あることも
- 専門職ほど支援連携が
ムズかしい
- たくさん人の目でみて、チームで支援できる
システムを
- 本人と家族だけではむずかしい
(サービス手続きなど) しサポート必要
- 自動車免許返納後の移動手段
し市町村またぐ移動も
- 仲間とつながる (市町村での居場所)
拠点となる病院での
- 現在の介護保険サービスでは、
利用できるサービスがない
- 40歳まで介護保険 利用できない
20代の方もいる

城間清剛 さん

城間クリニック 院長

(6)

- ▶ 診断 まで10年 かかる ことも
- ▶ 進行 してから くる ことも 診断
ムズかしい
- ▶ 定期的 に きて もらう こと
- ▶ 家族 がおかしい と思ったら
それはおかしい
- ▶ まず 自分ごと として
- ▶ 生活習慣病 との つながり ある (高齢者)
- ▶ 100人 に ひとり 若年性 認知症 いる
- ▶ 交通事故 による 認知症 は
介護保険 つかえない
- ▶ 自身の健康 イジメ! いかに人の
接点も
持つこと
- ▶ 社会参加 を 継続 する
しコロナでいきに進行している 10年→3年

進行が早い

身体おとし ても早い

はやめの意志決定 大切

認知症予防 の1/2 のポイント

利用できる 制度、経済的 支援

知られてない こと で 使える のに 使わ
れない 制度 も

しっかり 判断 して、手続 き

高良礼子

うるま市地域包括支援センターよなし
認知症地域支援推進員

新里さんから相談
どうしたら、みんなで考えた

空白期間で家族が一人になる方も多い

おひとりさま問題

よなしエッセイ → 7名の若年性認知症
おしとみさんと連絡でつながる

居場所づくり
デイサービスへ行くこと、いかに言われて

若年性認知症専門の居場所
R3年4月～月回
新里さんギターをひいてくれたり
トランプしたり

送迎がネック
(物動)

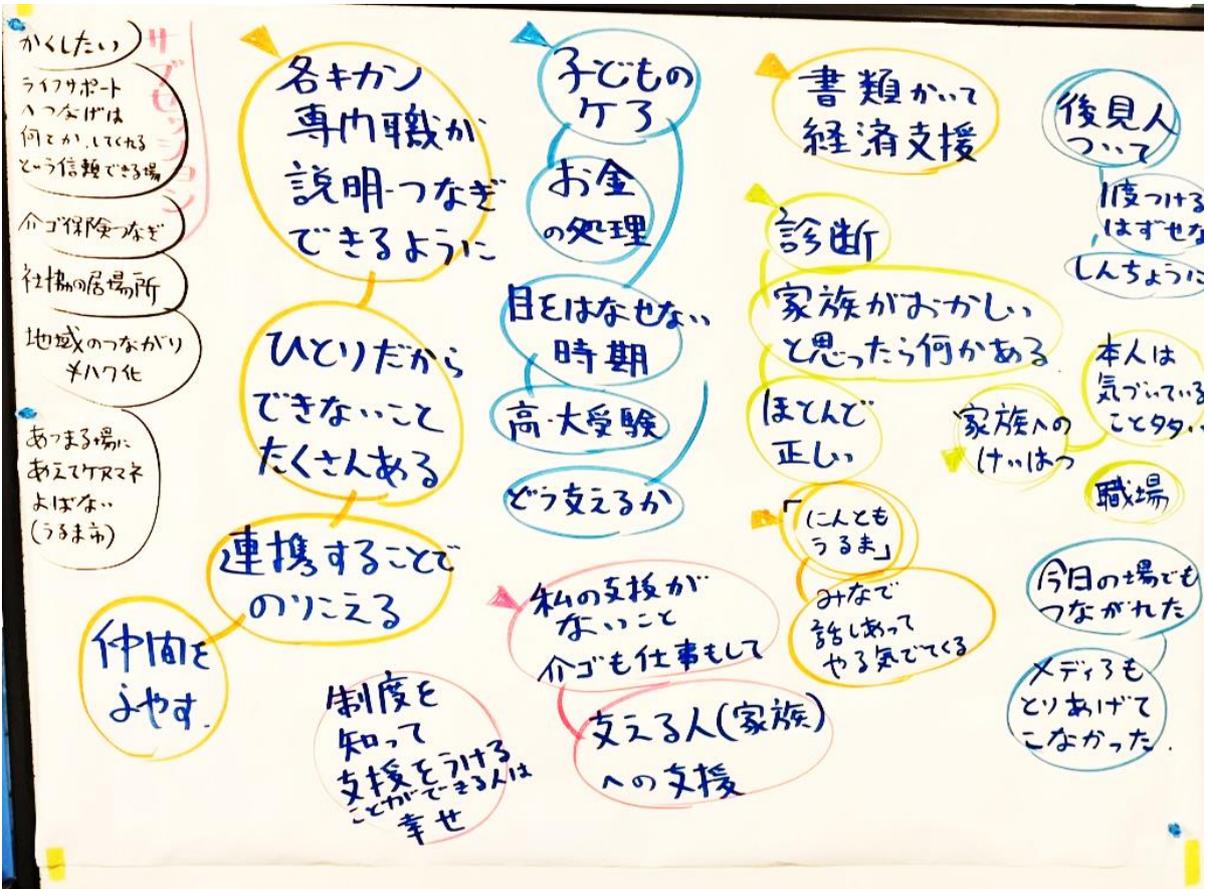
福祉障がいサービス
などでの利用できないか

嘉陽拓也

琉球新報社

- 在宅医療の全ての要素が入っている
自主性 / 生き方 / けろのしかた
- 医・福より少しひろい支援のカタチ
- 医療難民問題への対応に
つながる

デイサービス
につながったり



友寄

やってよかった。

かかろうキカイなかった人に。

課題を共有できた。

それぞれの立場で何ができるだろう。

本人・家族

↑への支援。つ

チームでかかろうこと。

本
意

施策とオーダーメイドガム。

〈みまわせも必要

物の動の肉題がこなしているにも

居場所の設計のヒント。

地域はてこまてできるだろう

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 一部の専門領域から支援方法を考えるのではなく、様々なジャンルの支援者がチームを組み、当事者の生活状況、家族構成により必要な支援が大きく異なることを考慮し、最適な支援方法を設計すべき
- 若年性認知症は、自らの体調不良が認知症に起因するという判断が難しく、診断までに長期の期間を要することがある。それが病状を進行させる原因にもなっている。自分や家族の小さな変化を見逃さず、早期受診を促す啓発が必要
- 高齢者の認知症と地域づくりの議論は深まっているが、若年性認知症は高齢者の認知症と異なる支援が必要なため、地域がどこまで出来るかを議論していく
- 若年性認知症の方の居場所づくりを考える上で、送迎（移動）がネックになっている。継続的な議論が必要

■参加者によるサブセッション

くらし・就労・子育て、 若年性認知症にまつわる課題をみんなで共有する

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ いろんな問題、高れい者にはない問題がある。別物である。経済、くらし、子育ての制度
- ・ よこの連携で支える
- ・ いろんなアイデアが必要
- ・ 精神科のソーシャルワーカーとして
- ・ 制度がすすむと、支援がたて割りになり、なればなるほど、当事者の声がとどかない。いいことが伝わらない。社会の生きづらさもあい仲間(20名)少しおかしいと気づく。いろんな問題が発信して、当事者の声を伝える。
- ・ 診断されるのに、時間がかかるのが >_< 医療で連携できるか、友人同士でも発見できるか
- ・ 受容する時、友人のサポート、サポート体制へつなげる
- ・ 「まさか、私が！」若年→自分が自分のことを大切に！周りまでかまってもらえない
- ・ 現役世代は、自分のことはあとまわしに
- ・ つながる期間の空白をみじかく
- ・ AIをくしして、サポート体制についてインターネットで情報まとめるのは？
- ・ 本人がしっかんセンターへつながる仕掛け

②

- ・ 今使える制度の整理
- ・ 知らないと使えない
- ・ 広報

③

- ・ 横のつながり
- ・ 課題が多い(何から手をつけてよいかわからない)→とはいえ、ひとりひとりではサポートできないもの、逆
- ・ 今日制度についてのあるものの整理をと広報→どこにつなげればいいのか知った→市町村単位でない広域でつながる必要がある
- ・ ないもの→発展サービスあっても知らなければつかえない
- ・ 介護現場で働く人と一般の県民 自分たちに出来ることとして(つなげる)

④

(感想)

- ・ 若年性の関わりはないが、現実、現状の厳しさを知った
- ・ 障がい者支援、就労支援につなげた事例はある。介ゴ保険へのつなぎをしていくことになるかと思っている。
- ・ 認知症=高齢のイメージがあった。自分の思いこみをとっばらえた。なくして支援していきたい。
- ・ 地域づくり=横のつながりが少ない所をカバーできるようにになりたい。病院、企業、専門職など。
- ・ 自治会がない等の住民同士のつながりも希薄になってきているのも課題

⑤

- ・ 北中城村、人口 8 千人→100～150 人近く若年性の方いるかも。
- ・ 1 名担当しているが、きっとまだ見つけられてない？

⑥

- ・ 家ゾク会が浦添市にない
- ・ 家ゾク会→場所が多い方がいいと思う
- ・ 支える家ゾクのケアも必要！

⑦

課題

Ex.それぞれのサポート問題

支援へつなげる→誰が？

介護保険制度対象外

みえてきた必要な支援をどこに？

診断、気づかない、

かくしている、かくしたい、

本人判断力ない中、助言しても、必要な支援までつながらない

かけ込み的な場（浦添だとライフサポート）

知っておくこと大事

各支援のタテ割をヨコにつなげる場が必要！

場が必要である→解決に向けた支えになる場でありつつ、偏ってしまわない

若年性認知症に関する地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

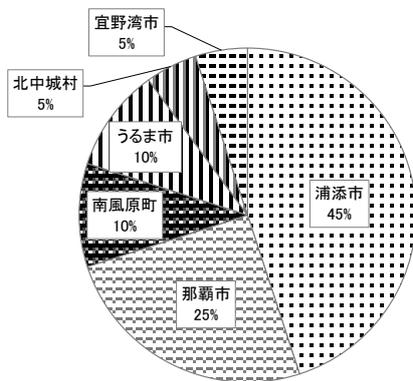
- ・日時：2023年3月2日（木）13:30-16:10
- ・場所：沖縄県総合福祉センター 501 教室
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：22名（アンケート回収20名、回収率91%）

4. 満足度

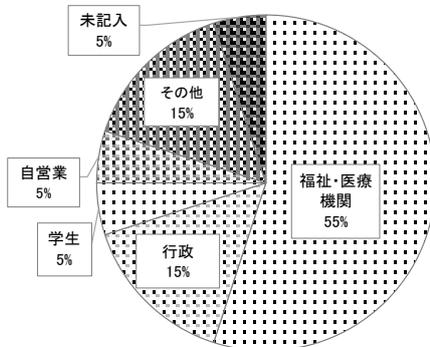
平均：4.9（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
19名	1名	0名	0名	0名

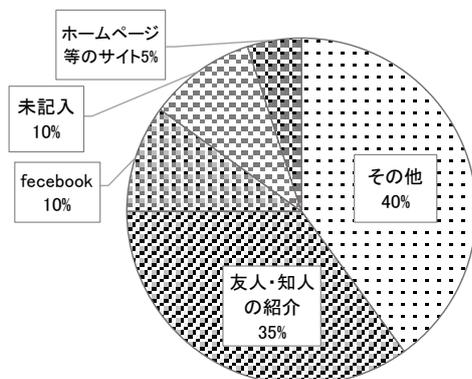
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ さまざまな視点からの意見を聞くことができ、勉強になりました。
 - ・ 参加者と情報共有できたこと、とても良い機会となりました。一步一步ずつ進みます。
 - ・ 若年性認知症の問題と課題を皆が自分事として考える機会があって良かったです。ありがとうございます。
 - ・ うるま市の包括の動き、若年性認知症の課題をあらためて知る機会になった。
 - ・ ぼやけていたニーズ、課題を少しだけでも明確にすることができ、今後の取組みの参考になりました。
 - ・ 高齢者にはない若年性の事代の問題があり、今までにはないアイデアが必要になると考えさせられた。
 - ・ 若年性認知症の支援について情報を得ることができた
 - ・ 若年性認知症の事が周知できた
 - ・ 若年性認知症についていろんな機関の方のいろんな面からの意見を聞けたから
 - ・ 居場所づくりをするコーディネーターの方、医師（診断の場）の方、それぞれの視点
 - ・ やって良かった。情報共有が出来たと思います。
 - ・ 横のつながりの必要性を強く思った、気づけた。
- 現状を多様な視点から知ることができた。

- ・ 当事者、支援者の目線、関わりと多くの話しが聞け非常に参考となった
- ・ 今まで知らなかった事を知る事ができた。
- ・ 若年性認知症について理解できたとともに、制度利用につながるまで、時間、労力がかかることが分かった。
- ・ 多職種からの意見や実例を聞くことができよかったです。
- ・ 若年性認知症の多くの課題について知ることができた。
- ・ 若年認知症について関わる機会が少なく、情報もなかったので若年認知症に特化してむきあうことができ、今後業務にいかしていきたいと思います。
- ・ 本人を支える家族のケアも重要だということ
- ・ 移動についてタクシー会社とのタイアップ（浦添市の行政の方から提案）
- ・ おかしいと思ったら受診を促す
若年性の方々を支えようとしている方々を増やすこと ※身近な人全般見逃さないため
解決に向けてヨコのつながりでタテを埋める
家族の支援→ない現状…。課題！！家族の心を含めた支援制度が必要
- ・ 城間先生のお話は興味深かった。コロナ禍…12のポイント
安次富さんの包括との連携の話

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 居場所作り、申請するともらえるお金、後見人について家族への支援
- ・ 広報の仕方。嘉陽さんを通してパイプを太くします。
- ・ 家族を支える制度がほとんどない事、点は大きな課題と感じています。
- ・ うるま市推進員間で作るカフェ
- ・ コーディネーターの役割、今後の連携をイメージしていきたい。
- ・ まず知識を持ち、周りの人に伝えて行く事が必要、重要。
「何か変！」とどうする。本人・家族・職場・友人がどう動くか。
- ・ 相談うけてつなぐ、つなげる、を認知症に限らず社会全体で課題を伝え支える地域作りが楽しみ
- ・ 家族や職場の人など、身近な人が何かおかしいと思ったら何かあることがほとんどであるため受診する
- ・ 虹色ブレイクタイム（うるま市の居場所）認ともうるま市
家族支援、制度を知る為の後方支援
- ・ 若年性認知症の居場所作り
- ・ 高良さんの若年性認知症に特化したカフェ
支援者の視点 とても重要なことだと思います

(写真) 会場の様子



感想

- 若年性の間取りは下りた、現実・現状の
感しをわかった。
 - 障がい者支援、就労支援にまつけた事例は文了
同じ行状のつづきをしてみたいと思ってる。
 - 認知症 = 高齢者のイメージがまた、自分の思い込みで
いってる。もっと支援したい。
 - 地域での一環のつづきをやっていくために、支援のつづきを
病院、企業、専門職など。
- 住民同士をつなぐことも非常に大切な課題。
自治会が中心。

北中城村
人口8千人 → 100~150人近く
若年性の方いるかも。
1名担当しているが、
きっとまだ見つけられてない？

◦ 家づくり会が浦添市に多い
↓
◦ 場所が多い方が……と
思う
◦ 支える家づくりのケアも必要!

①

課題

Ex それぞれのサポート問題

支援へつなげる → 誰か?

介護保険制度対象外

対応できた^{支援}
必要^{支援}をどこに?

②

診断. 気がつかない

かくしている. かくしたい.

本人判断が難しい中. 即言ひ

も. 必要が支援につながらない

③

かたづけの場 ^{補注など} (ラフサポート)

知っておくこと大事

各支援のタテ割をヨコに

つなげる場が必要!

④

場が必要である.

↓

解決に向けた支えに

つなげる場でありつつ.

如 偏りがない